

## 三田市の子ども・子育てを取り巻く現状

## 1. 三田市の人口

## ①年齢5区分別人口の推移（各年3月末時点）と将来の見通し

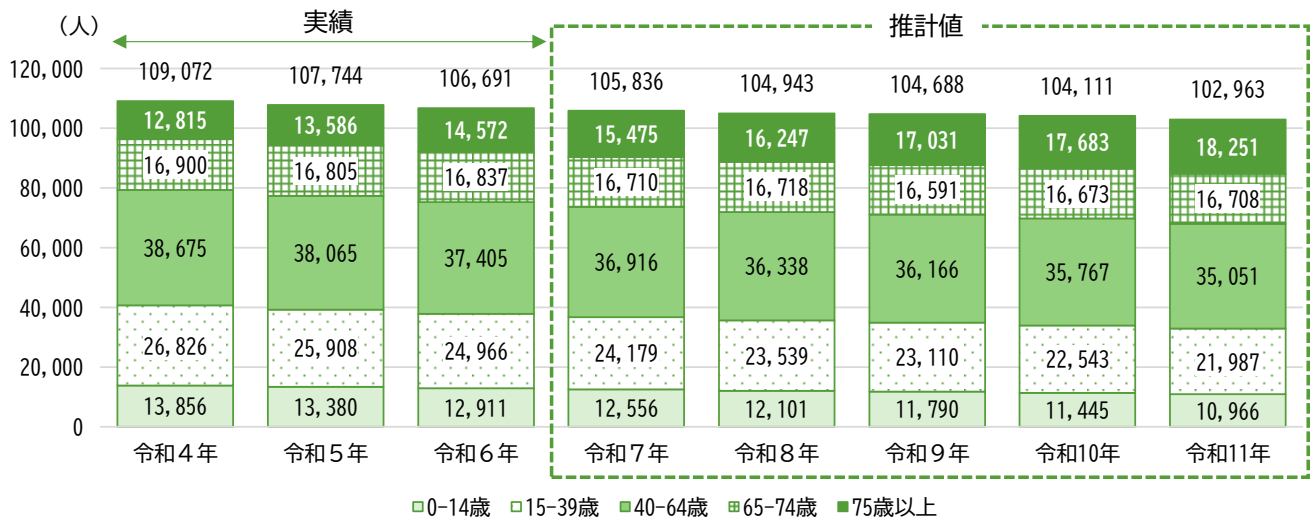
本市の総人口は減少傾向にあり、令和6年時点では106,691人となっています。

年齢別の内訳をみると、64歳以下は減少が続いている一方で、65歳以上は増加が続いています。

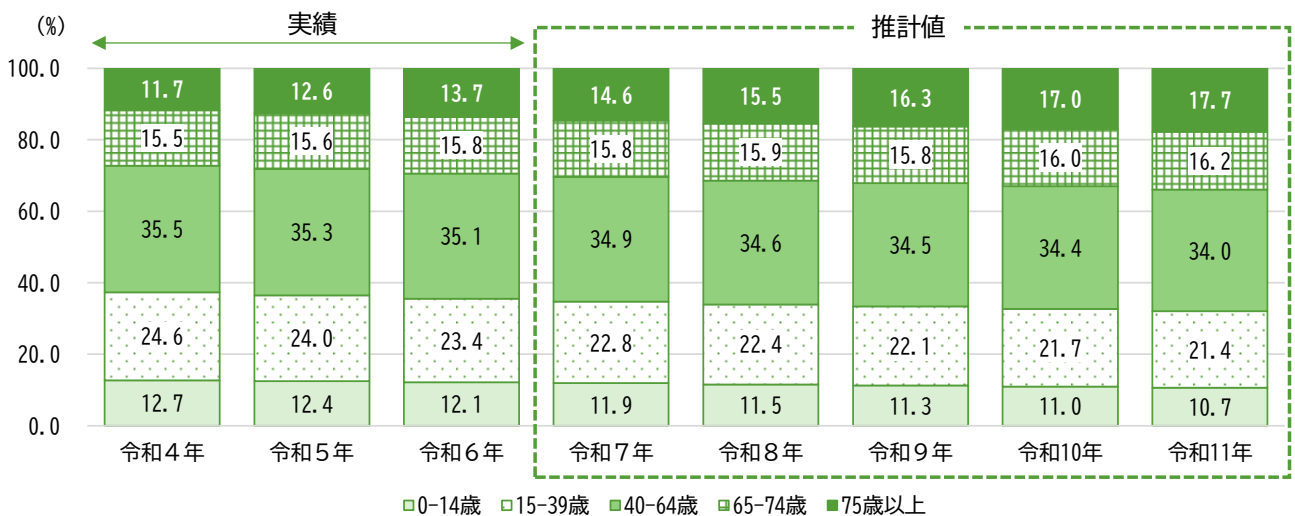
総人口に対する各年代の割合をみると、65歳以上の割合は上昇傾向にあり、令和6年は29.5%となっています。一方、39歳以下の人口割合は4割を切り、令和6年時点で0～14歳が12.1%、15～39歳が23.4%と少子高齢化が進んでいることが分かります。

人口減少対策を行わない前提のもと算出した将来人口の見通しは、39歳までの子ども・若者人口は引き続き減少し、65歳以上人口は増加傾向にあります。

【年齢5区分別人口の推移と将来の見通し】



【年齢5区分別人口割合の推移と将来の見通し】



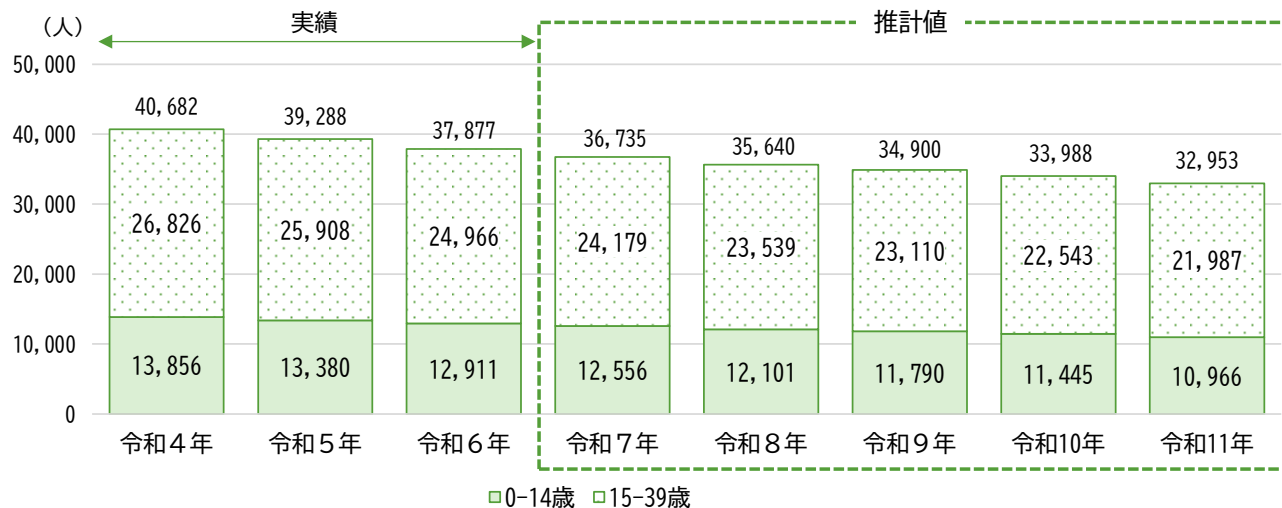
資料：令和6年まで：住民基本台帳（各年3月末）  
令和7年以降：コーホート変化率法に基づき推計

## ②0～39歳人口の推移（各年3月末時点）と将来の見通し

本市の0～39歳までの人口は年々減少し、令和7年以降も減少傾向が続くものと見込まれます。

令和11年の0歳から39歳までの人口は、令和6年の37,877人から4,924人減少し、32,953人となる見込みです。

【0～39歳人口の推移と将来の見通し】



資料：令和6年まで：住民基本台帳（各年3月末）  
令和7年以降：コーホート変化率法に基づき推計

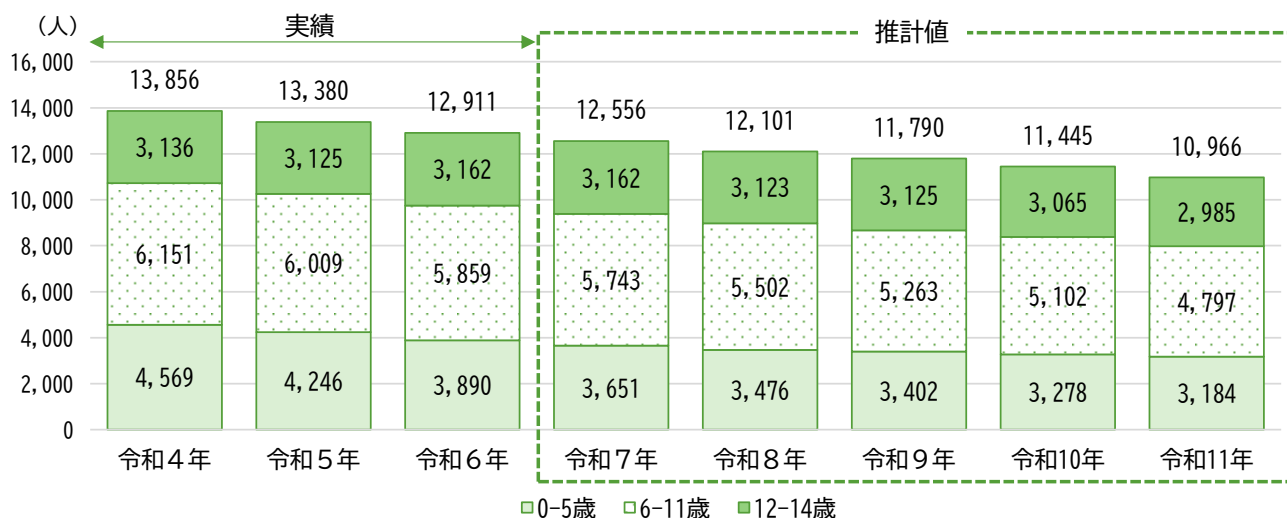
## ③14歳以下人口の推移（各年3月末時点）と将来の見通し

本市の14歳以下人口についても減少傾向が続いており、令和6年には12,911人となっています。

年齢別の内訳をみると、特に0歳から5歳での減少幅が大きく、令和6年は4千人を切っています。

今後の見通しは、14歳以下人口の減少は続き、令和11年には1万人台となる見込みです。

【14歳以下人口の推移と将来推計】



資料：令和6年まで：住民基本台帳（各年3月末）  
令和7年以降：コーホート変化率法に基づき推計

#### ④合計特殊出生率<sup>1</sup>の推移

本市の合計特殊出生率は平成17年度以降、全国・兵庫県を下回って推移しており、令和2年度には1.13となっています。阪神北圏域の他市と比較しても、平成17年度以降、本市が最も低い合計特殊出生率となっています。

【合計特殊出生率の推移】

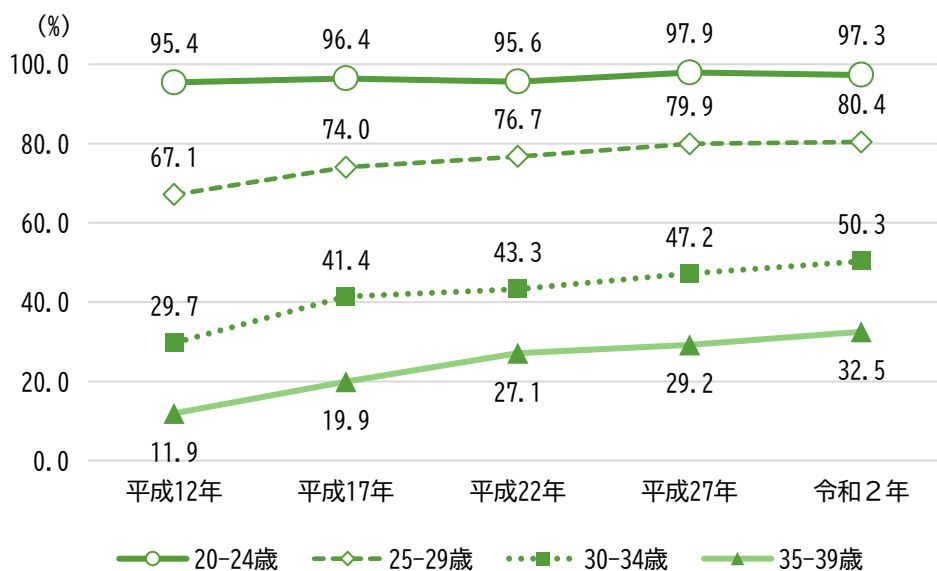
	平成12年度	平成17年度	平成22年度	平成27年度	令和2年度
三田市	1.38	1.08	1.24	1.27	1.13
兵庫県	1.38	1.25	1.41	1.48	1.39
全国	1.36	1.26	1.39	1.45	1.33
伊丹市	1.50	1.39	1.63	1.57	1.56
宝塚市	1.34	1.17	1.34	1.44	1.37
川西市	1.20	1.12	1.30	1.36	1.29

資料：兵庫県保健統計年報

#### ④20歳代・30歳代の未婚率の推移

本市の20歳代・30歳代の未婚率については男女ともに上昇傾向にあり、特に30歳代の男性、25歳から39歳の女性ではともに平成12年から令和2年で約20ポイント上昇しています。令和2年時点での比較をみると、男女ともに概ね全国・兵庫県や阪神北圏域の他市より高い未婚率となっており、特に女性の25歳から29歳で全国より11.5ポイント高くなっています。

【20歳代・30歳代男性の未婚率の推移】



資料：国勢調査

<sup>1</sup> 合計特殊出生率：ひとりの女性が一生の間に出産する子どもの平均人数を推定する値。15から49歳までの女性の出生率を合計したもの。

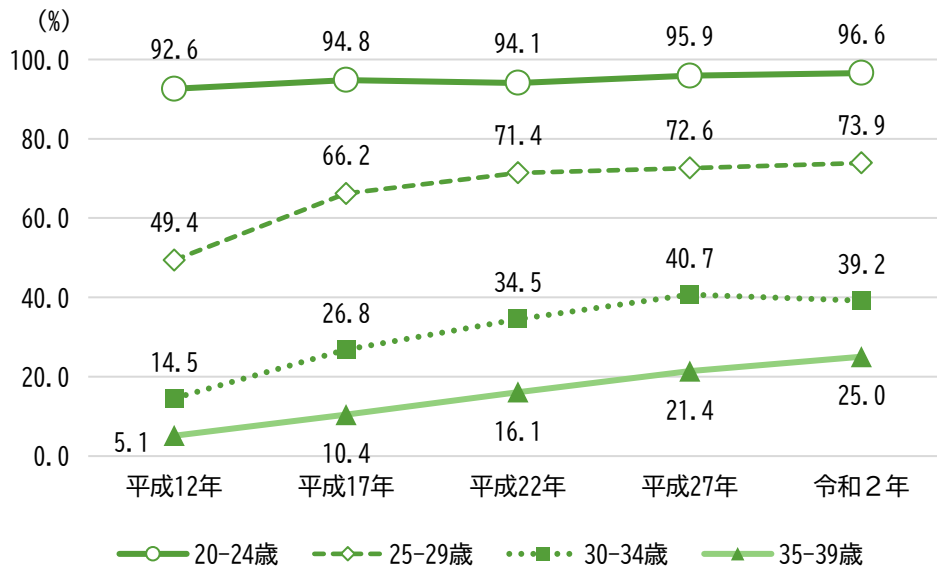
【令和2年の20歳代・30歳代男性の未婚率】

(%)

令和2年	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳
三田市	97.3	80.4	50.3	32.5
兵庫県	95.1	71.3	44.5	32.3
全国	95.2	72.9	47.4	34.5
伊丹市	95.5	69.0	39.9	28.6
宝塚市	96.6	71.0	38.8	26.0
川西市	97.1	72.9	43.3	30.4

資料：国勢調査

【20歳代・30歳代女性の未婚率の推移】



資料：国勢調査

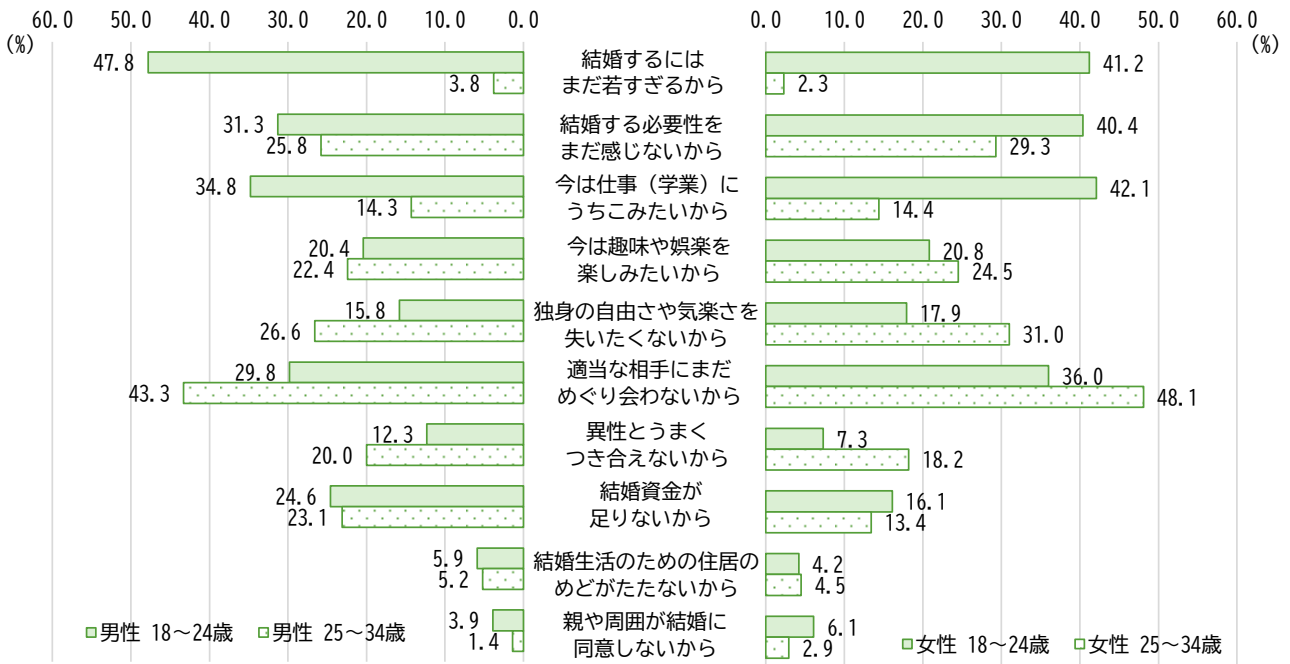
【令和2年の20歳代・30歳代女性の未婚率】

(%)

令和2年	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳
三田市	96.6	73.9	39.2	25.0
兵庫県	93.0	62.7	34.7	23.8
全国	92.3	62.4	35.2	23.6
伊丹市	92.5	58.3	29.0	21.4
宝塚市	95.4	68.2	34.1	22.5
川西市	95.8	68.7	34.8	23.8

資料：国勢調査

【参考：独身でいる理由】



資料：国立社会保障・人口問題研究所「第16回出生動向基本調査（結婚と出産に関する全国調査）」

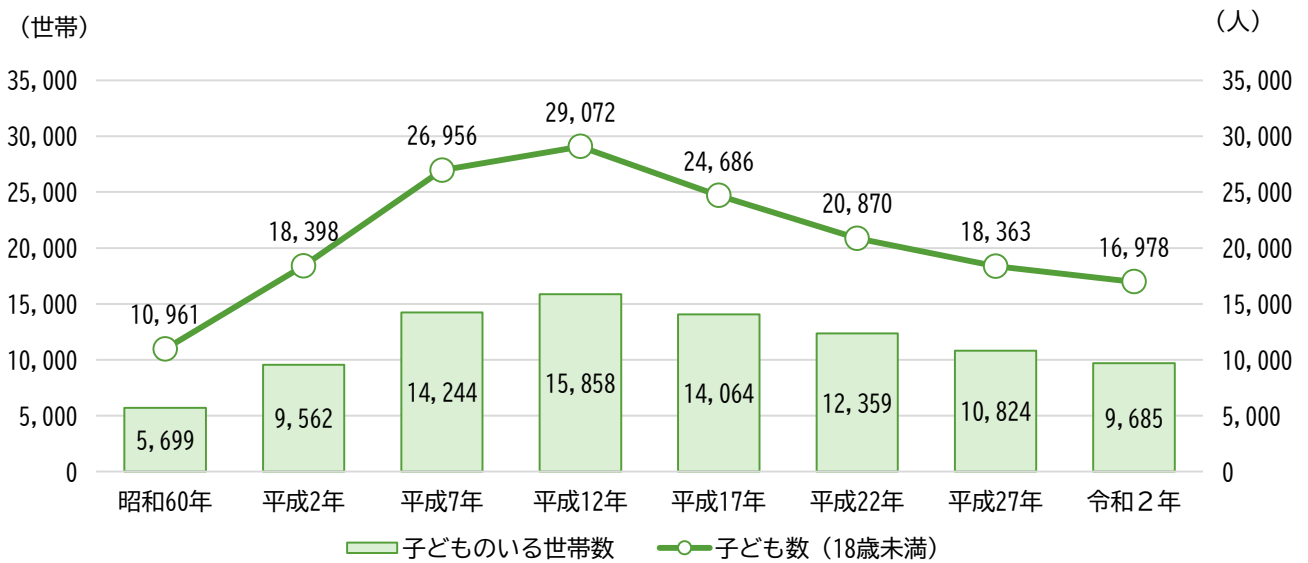
## 2. 三田市の子どものいる世帯

### ①18歳未満の子どものいる世帯・家族形態

18歳未満の子どものいる世帯数、18歳未満の子ども数については平成12年をピークとして以降減少が続いており、令和2年で18歳未満の子どものいる世帯数は9,685世帯、18歳未満の子ども数は16,978人となっています。

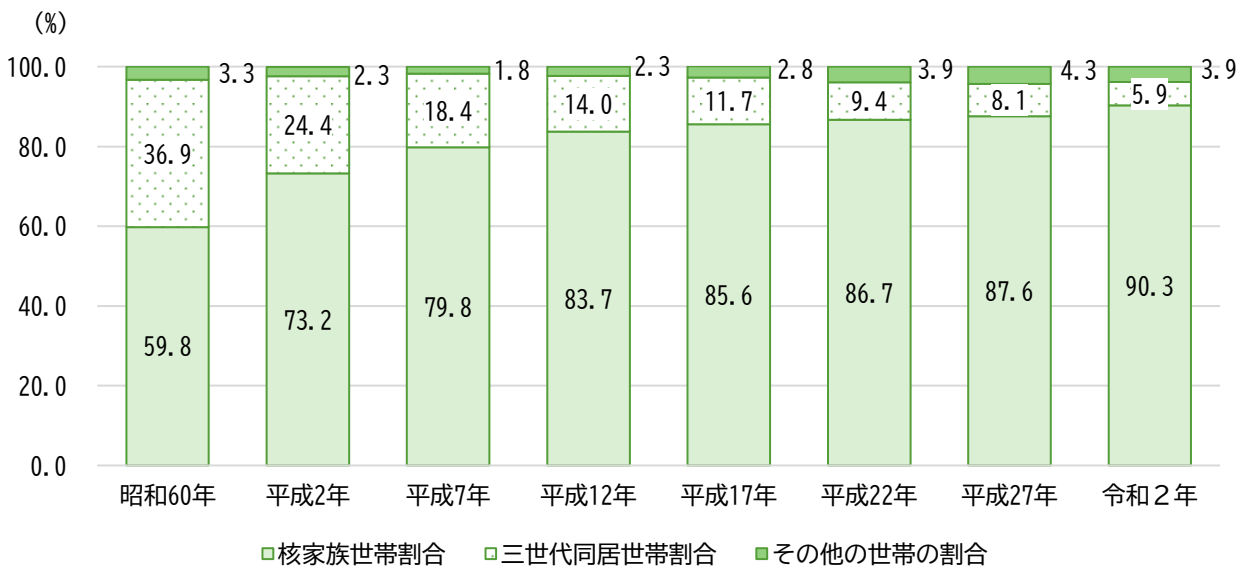
18歳未満の子どものいる世帯の家族形態の内訳をみると、親とその子どもだけから成る核家族世帯割合の増加が続いている一方で、三世代同居世帯割合は減少が続いています。

【18歳未満の子どものいる世帯数、18歳未満の子ども数の推移】



資料：国勢調査

【18歳未満の子どものいる世帯における家族形態の推移】



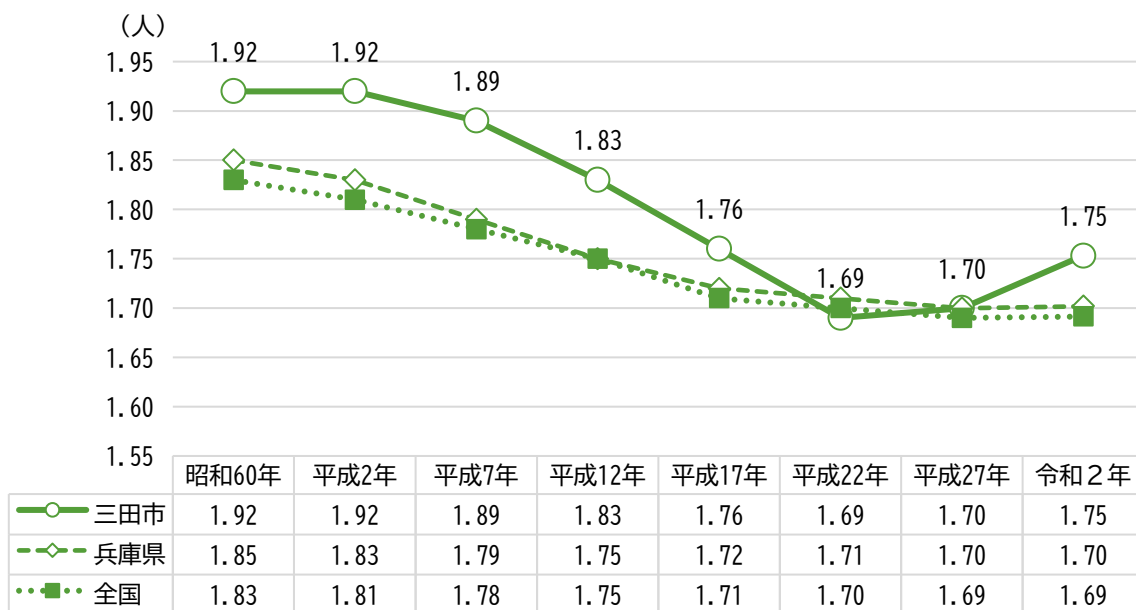
資料：国勢調査

## ②子どものいる世帯における平均子ども数の推移

18歳未満の子どものいる世帯における平均子ども数については平成22年に1.69人まで減少したもののその後増加傾向がみられ、令和2年には1.75人となっています。平成22、27年以外は全国・兵庫県を上回っての推移が続いています。

令和2年時点で比較すると、全国・兵庫県以外に阪神北圏域の他市を上回っている結果となっています。

【18歳未満の子どものいる世帯における平均子ども数の推移】



(人)

	三田市	兵庫県	全国	伊丹市	宝塚市	川西市
令和2年	1.75	1.70	1.69	1.68	1.66	1.70

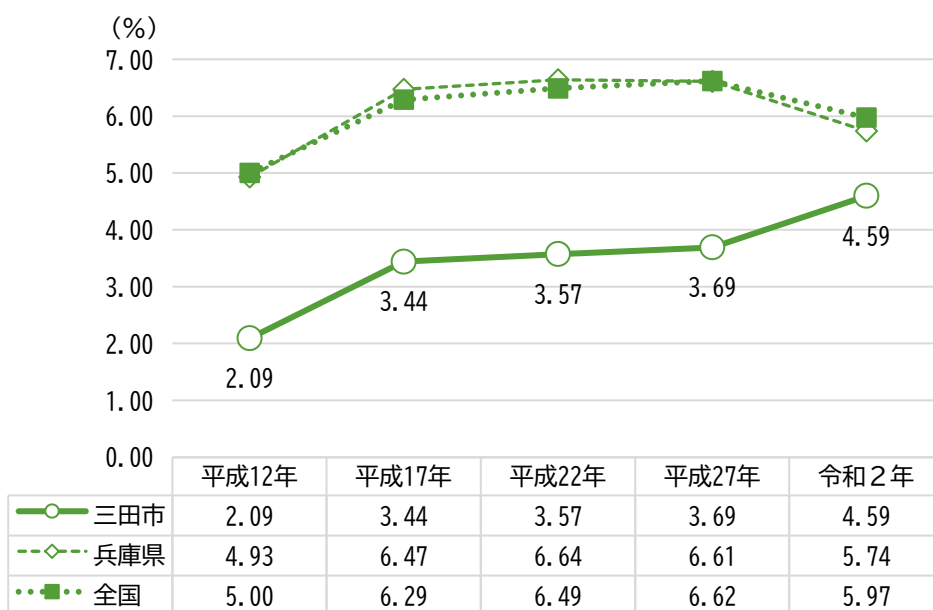
資料：国勢調査

### ③ひとり親世帯割合の推移

18歳未満の子どもがいる世帯に占めるひとり親世帯の割合は、全国・兵庫県を下回って推移しているものの、年々増加がみられ令和2年は4.59%となっています。

令和2年時点で比較すると、全国・兵庫県よりは下回っているものの、阪神北圏域の市の中では最も高くなっています。

【18歳未満の子のいる世帯に占めるひとり親世帯割合の推移】



(%)

	三田市	兵庫県	全国	伊丹市	宝塚市	川西市
令和2年	4.59	5.74	5.97	4.42	4.20	4.50

資料：国勢調査

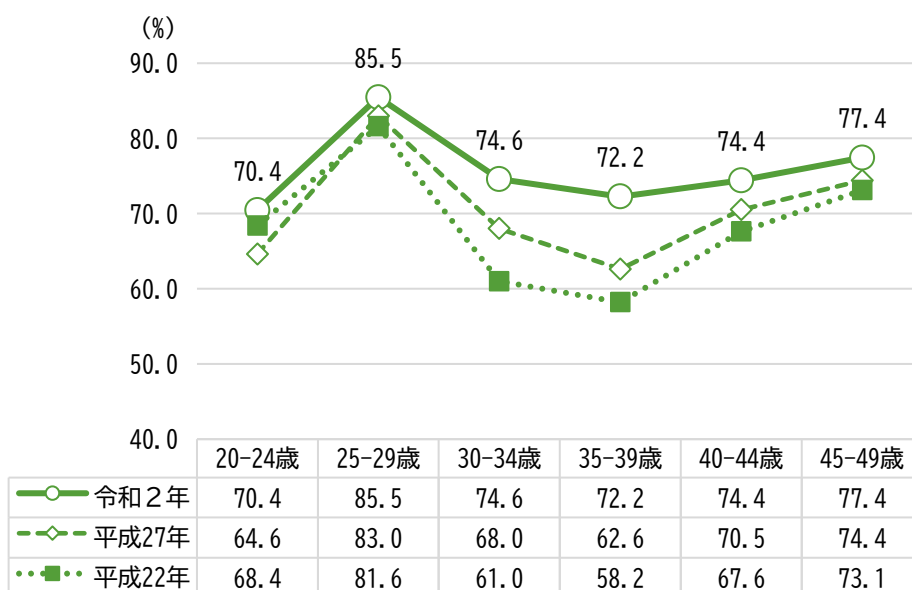
### 3. 三田市における女性の就労

#### ①女性の年齢別労働力率<sup>2</sup>の推移・比較

本市の20歳代から40歳代の女性の労働力率は上昇傾向にあり、結婚や妊娠・出産を機に仕事から離れ、育児が落ち着いた時期に再び上昇するM字カーブについても年々谷の部分の部分が浅くなってきています。特に30歳代での労働力率の上昇幅が大きく、平成22年より約14ポイント上昇しています。

一方、令和2年時点で全国・兵庫県と比較すると、30歳代と40歳代で全国・兵庫県を下回っており、特に35歳から44歳で全国より約5ポイント下回っています。一方で、阪神北圏域の他市と比較すると30歳代で本市が最も高くなっています。

【女性の労働力率の推移】



資料：国勢調査

【女性の労働力率の比較（令和2年）】

(%)

	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳
三田市	70.4	85.5	74.6	72.2	74.4	77.4
兵庫県	71.9	85.2	75.9	74.6	77.8	79.6
全国	74.2	86.6	79.1	78.1	80.8	82.0
伊丹市	73.5	82.9	71.1	70.4	74.5	78.2
宝塚市	69.6	86.5	72.7	68.5	71.9	75.2
川西市	71.4	85.2	73.2	71.1	74.6	78.5

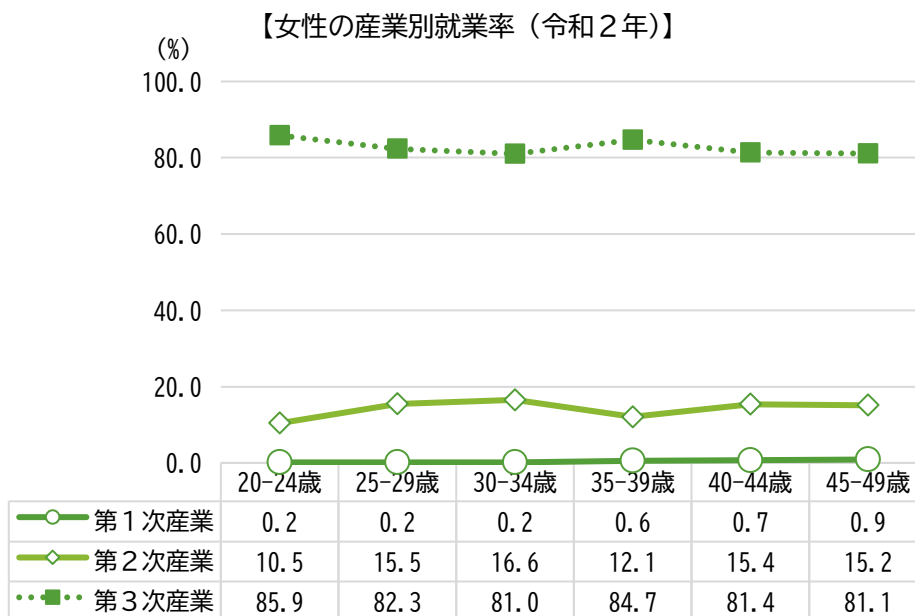
資料：国勢調査

<sup>2</sup> 労働力率：労働力人口（就業者数と完全失業者数の合計）が生産年齢人口（15歳以上の人口）に占める割合。

## ②女性の産業別就業率

本市の女性の就業率を産業別にみると、全ての年代で第3次産業就業率が8割を超えています。

全国・兵庫県と比較して大きな差は見られませんが、阪神北圏域の他市と比較すると、宝塚市や川西市に比べ第2次産業がやや高くなっている一方で、第3次産業がやや低くなっています。



資料：国勢調査

## 【女性の産業別就業率の比較（令和2年）】

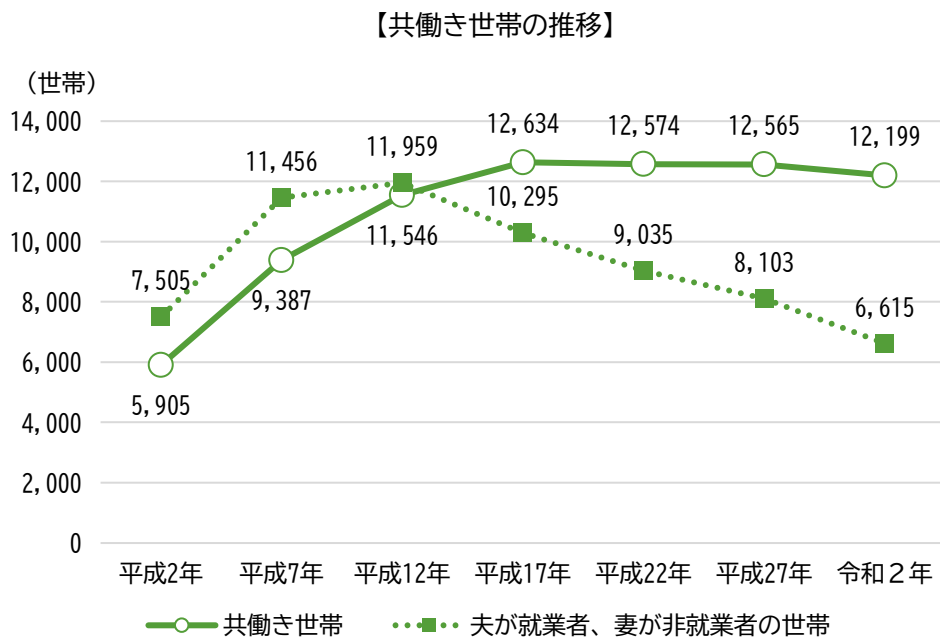
(%)

		20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳
三田市	第1次産業	0.2	0.2	0.2	0.6	0.7	0.9
	第2次産業	10.5	15.5	16.6	12.1	15.4	15.2
	第3次産業	85.9	82.3	81.0	84.7	81.4	81.1
兵庫県	第1次産業	0.3	0.3	0.4	0.6	0.6	0.5
	第2次産業	11.1	14.0	14.8	15.0	15.6	16.2
	第3次産業	84.1	82.5	81.8	81.6	81.1	80.6
全国	第1次産業	0.7	0.8	1.1	1.4	1.3	1.3
	第2次産業	11.9	13.1	13.9	14.3	15.0	15.6
	第3次産業	83.6	83.3	82.5	81.9	81.4	80.9
伊丹市	第1次産業	0.2	0.1	0.1	0.1	0.1	0.3
	第2次産業	7.7	13.3	13.5	12.2	14.4	15.3
	第3次産業	86.5	81.7	81.7	82.6	81.6	79.8
宝塚市	第1次産業	0.2	0.2	0.2	0.3	0.3	0.4
	第2次産業	5.9	9.7	11.0	10.2	10.6	11.4
	第3次産業	90.2	87.3	85.8	87.0	86.1	85.9
川西市	第1次産業	0.2	0.0	0.2	0.3	0.3	0.2
	第2次産業	5.1	9.8	9.1	10.5	11.4	11.1
	第3次産業	91.2	87.7	88.4	87.0	86.1	86.2

資料：国勢調査

### ③共働き世帯の推移

本市の共働き世帯については、平成17年まで増加を続け、以降は12,000世帯台を推移しています。一方で、夫が就業者、妻が非就業者の世帯については、平成12年以降減少が続いており、令和2年には6,615世帯まで減少しています。

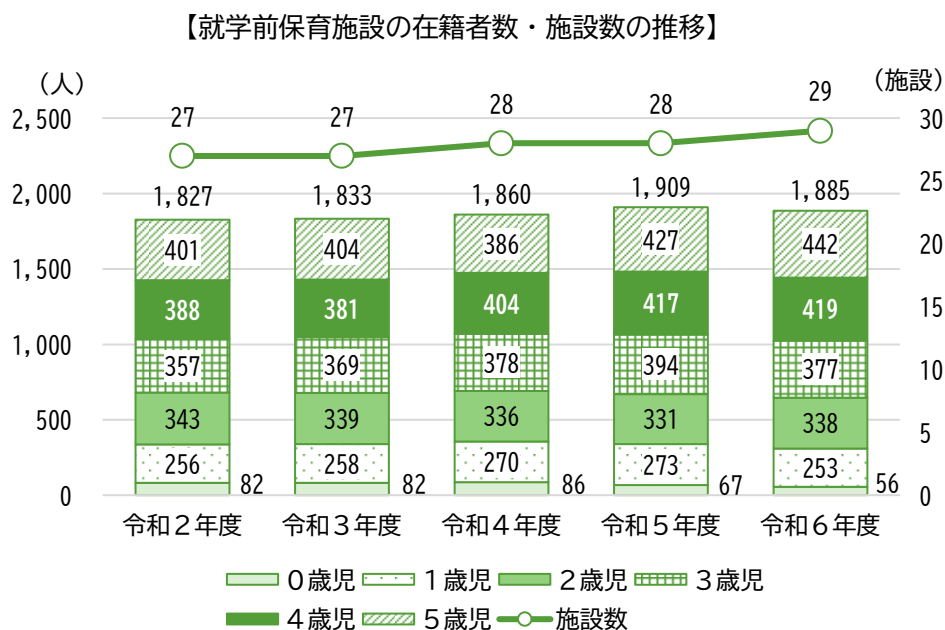


資料：国勢調査

#### 4. 幼稚園・認定こども園・保育所の状況

##### ①就学前保育施設の在籍者数・施設数の推移（各年度4月1日時点）

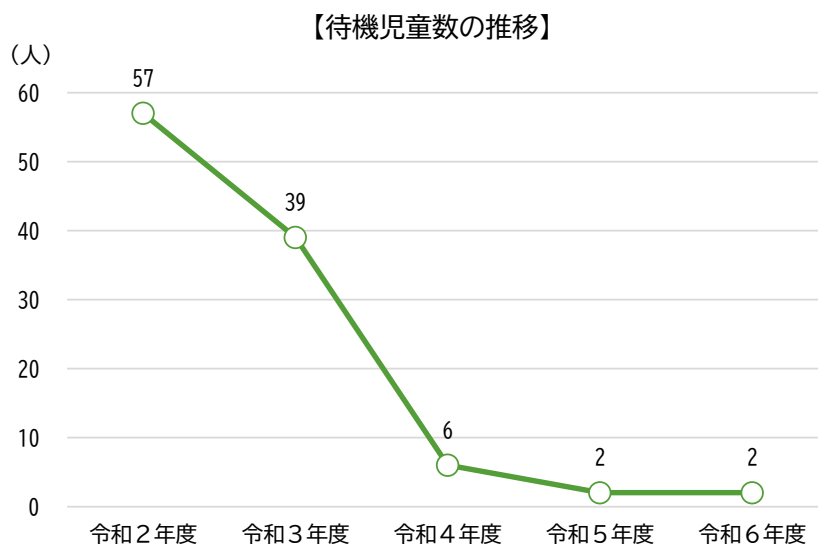
本市の就学前保育施設（保育所／園、認定こども園（保育利用）、小規模保育施設）の在籍者数については令和5年度まで増加傾向にありましたが、令和6年度は1,885人で前年度に比べ24人減少しています。施設数については、令和6年度の市立幼稚園再編により市立認定こども園が1施設開園したため29施設となっています。



資料：三田市 保育振興課

##### ②待機児童数の推移（各年度4月1日時点）

本市の待機児童数については、令和4年度の私立保育園の開園もあり、大きく減少し令和5年度及び令和6年度には2人まで減少しています。

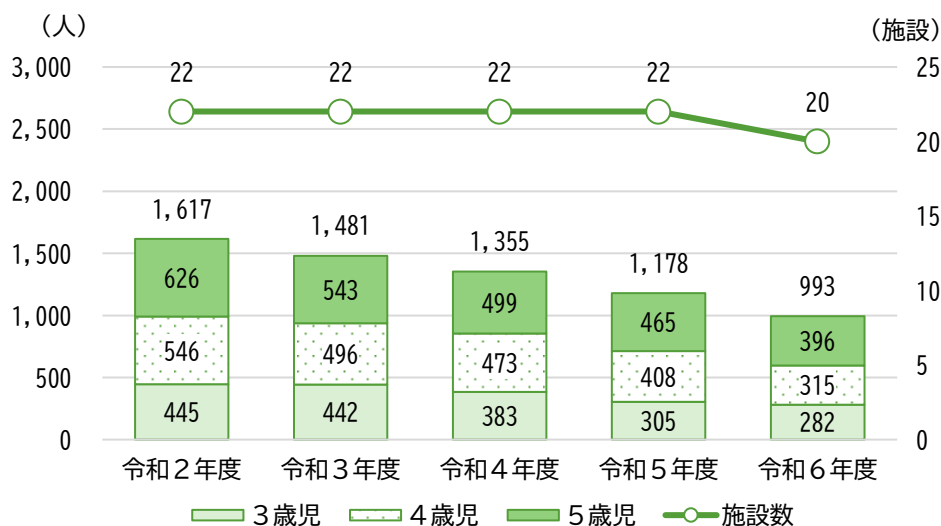


資料：三田市 保育振興課

### ③就学前教育施設の在籍者数・施設数の推移（各年度4月1日時点）

本市の就学前教育施設（市立幼稚園、認定こども園（教育利用））については、市立幼稚園10施設、認定こども園12施設の計22施設で推移していましたが、令和6年3月末に市立幼稚園再編による市立認定こども園1施設を開園し、市立幼稚園3施設が閉園したことにより現在は20施設となっています。在籍者数については年々減少しており、1,000人を切っています。

【就学前教育施設の在籍者数・施設数の推移】

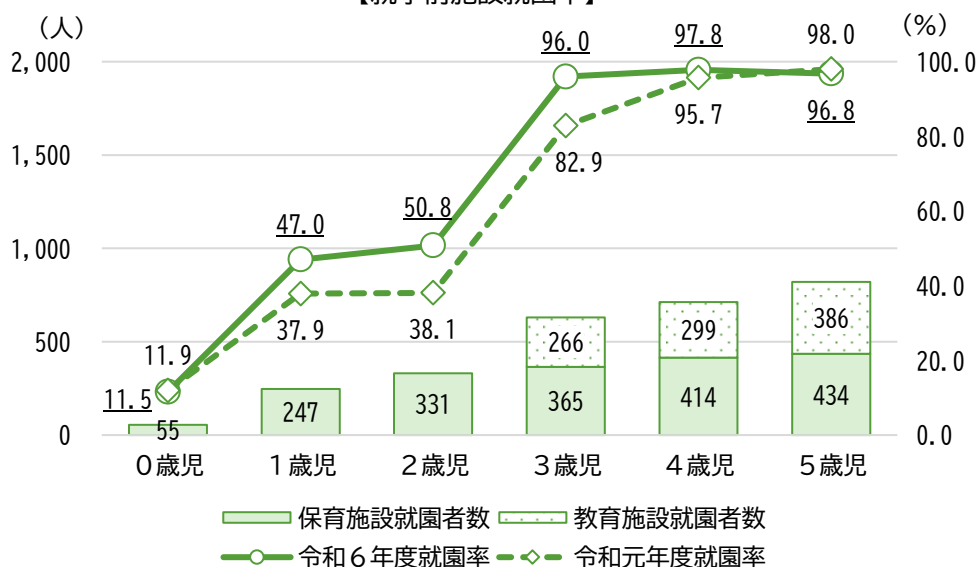


資料：三田市 保育振興課

### ④就学前施設就園率（各年度4月1日時点）

本市の就学前児童の就学前保育・教育施設への令和6年度の就園状況については、就園率は1歳児・2歳児で50%前後、3歳児以降は90%台となっています。令和元年度と比較すると、2歳児・3歳児で就園率が10ポイント以上上昇しています。

【就学前施設就園率】



資料：三田市 保育振興課

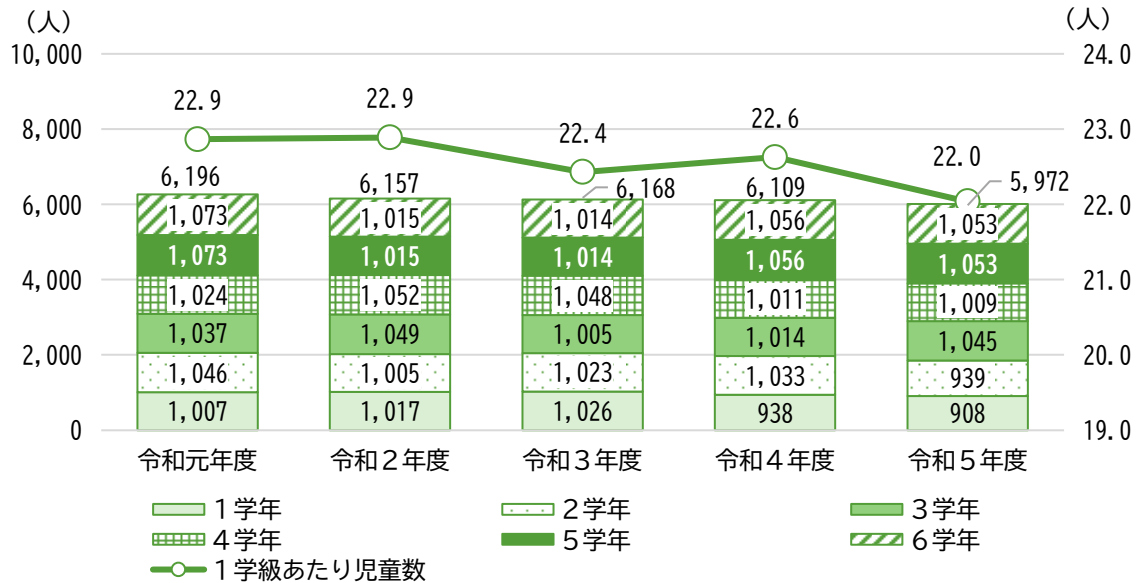
## 5. 小学校・中学校の状況

### ①市立小学校児童数の推移（各年度5月1日時点）

本市の市立小学校における児童数は、令和4年度までは6,100人台で推移していましたが、令和5年度は前年度から137人減り、5,972人となっています。令和元年度と比較すると、特に2学年での減少幅が大きく107人の減少となっています。

1学級あたりの児童数は22人台を推移しており、令和5年度には22.0人となっています。

【市立小学校児童数の推移】



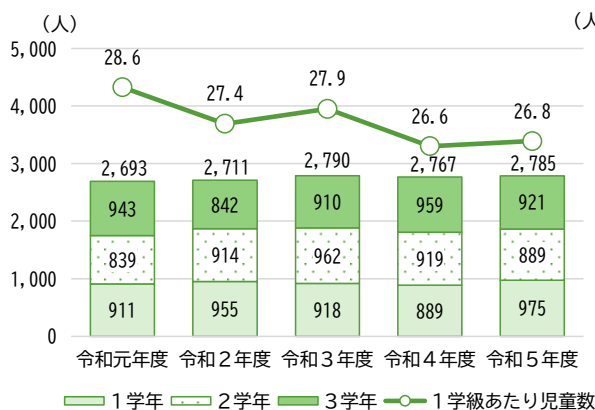
資料：三田市統計書 令和5年度版

### ②市立／私立中学校生徒数の推移（各年度5月1日時点）

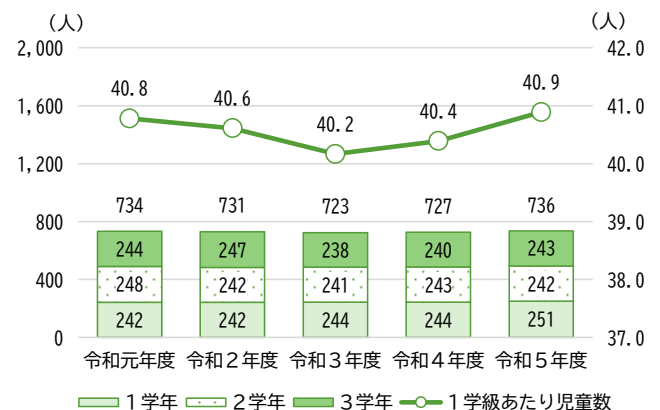
本市の市立中学校における生徒数は2,700人台で推移しており、令和5年度は2,785人となっています。ここ4年間の1学級あたりの生徒数は27人前後で推移しています。

私立中学校における生徒数は730人前後で推移し、令和5年度は736人となっています。1学級あたりの生徒数は40人程度で推移しています。

【市立中学校の生徒数の推移】



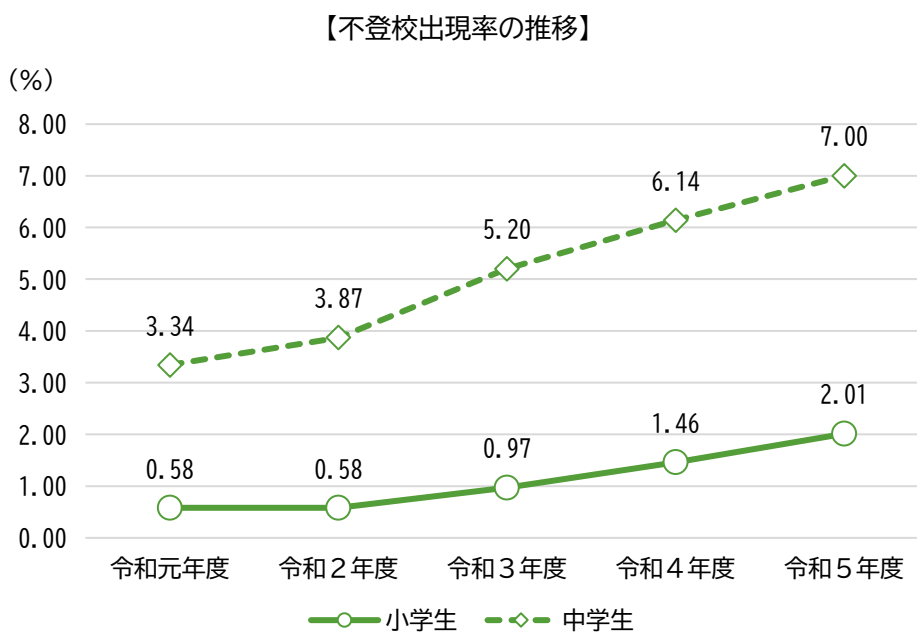
【私立中学校の生徒数の推移】



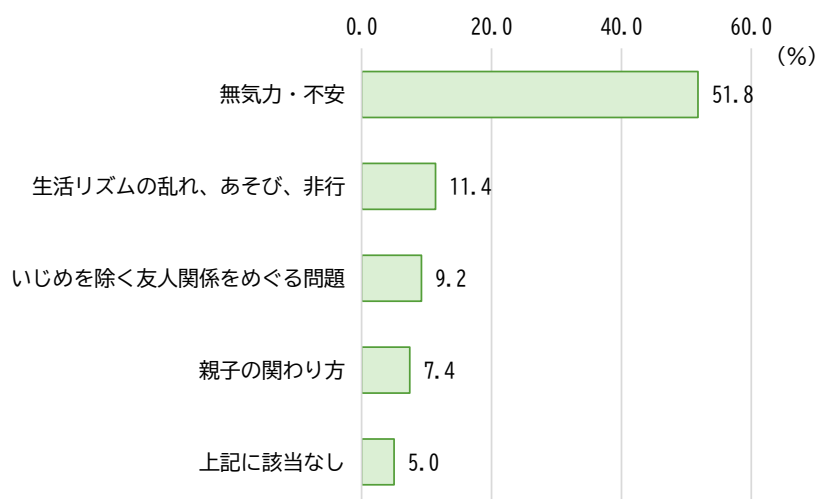
資料：三田市統計書 令和5年度版

### ③不登校出現率の推移

本市の不登校出現率については、小学生・中学生ともに年々上昇しており、令和5年度では、小学生で2.01%、中学生で7.00%となっています。特に中学生では令和元年度から令和5年度で3.66ポイントの上昇となっています。



### 【参考：不登校の要因（小・中学校）】

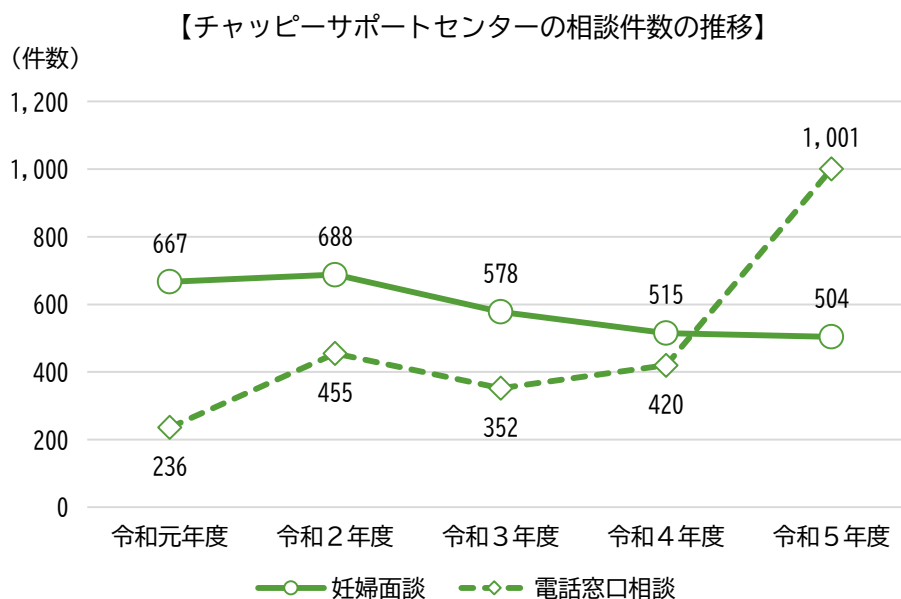


資料：文部科学省「令和4年度 児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果について」

## 6. 各種支援・相談の状況

### ①チャッピーサポートセンター（子育て世代包括支援センター）の相談件数の推移

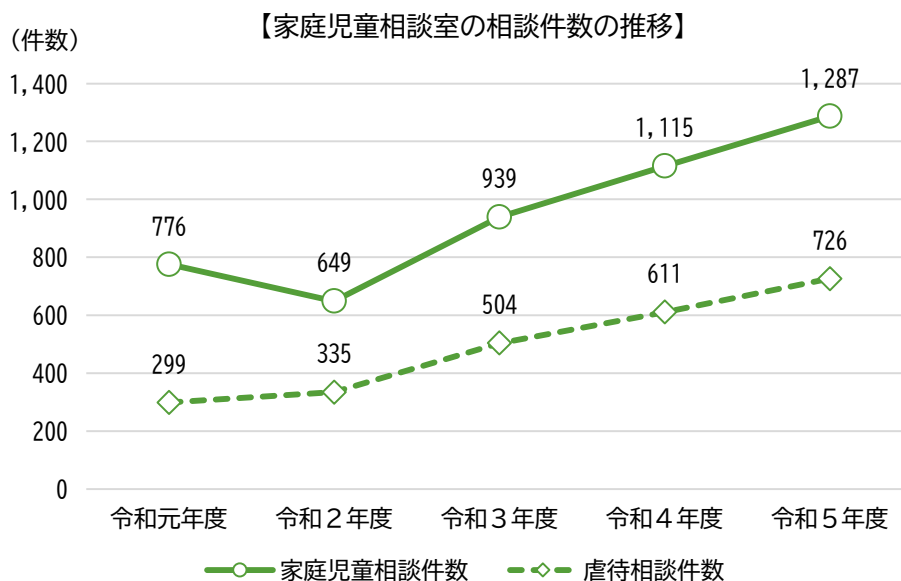
チャッピーサポートセンター（子育て世代包括支援センター）における相談件数をみると、妊婦面談については令和2年度以降減少傾向がみられるものの、電話相談は、令和5年度は1,001件と前年度から倍増しています。



資料：三田市 子ども政策課

### ②家庭児童相談室の相談件数の推移

家庭児童相談室の相談件数の推移をみると、家庭児童相談件数、虐待相談件数ともに令和2年度から増加傾向にあり、令和5年度は家庭児童相談件数が1,287件、虐待相談件数が726件と最も高い数値となっています。



資料：三田市 子ども家庭課